

MEIWA

アスファルトスプレー

AS150MH型

AS150M型

取扱説明書

パーツリスト

適応号機

11001号機以降

※ご使用前に必ずお読みください。

※本書は大切に保管し、必要なときにすぐに見られる場所に保管してください。

※将来の参照用として保存してください。

2017年12月 1日

初 版

Book No. AS150M171201 (M)



株式会社 明 和 製 作 所

《 ご あ い さ つ 》

この度は、アスファルトスプレヤをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は厳しい検査を行って出荷しておりますが、取扱いを誤ったり、日頃の点検整備などを怠りますとどんなすぐれた機械でも故障を起こし、ときには人身事故や重大な破損事故を招くことになります。

本書は、安全で正しい運転操作や応急処置および点検・整備などの必要な事柄を説明しておりますので必ずお読みください。また、取扱いを充分にご存じの方も本機独自の機構や取扱いがございますので、本機を使用する前に本書を熟読し「安全運転・正しい管理」をしてください。

本書は、機械の一部として供給され機械を取扱ううえで重要なものです。本書を紛失または破損し読めなくなった場合は、直ちに新しい取扱説明書と交換してください。

なお、機種によっては取扱いが異なる場合がございます。その場合はその都度、補足説明をしておりますので注意してお読みください。

エンジンおよびその他付属品に関することは、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

《 整備とサービスについて 》

ご使用中の故障やその他、ご不明な点およびサービスに関するご用命は、弊社またはお買い上げいただきました販売店にお気軽にご相談ください。

その際、製品名・製品型式・機械番号・エンジン名称・エンジン番号を併せてご連絡ください。

なお、保証に関することは、「保証証券」に記載していますのでご使用前に必ずお読みください。本書は、別冊の各取扱説明書と共に大切に保管してください。

S 目 次 S

ごあいさつ

整備とサービスについて

目 次

安全上の注意事項

- (1) はじめに P= S- 1
- (2) 安全警告の記号 P= S- 1
- (3) 警告および絵文字について P= S- 2
- (4) 安全標識表示場所 P= S- 3
 - a. 安全標識・その他注意銘板貼付位置 P= S- 3
 - b. 安全標識の詳細 P= S- 4
 - c. その他ラベルの詳細 P= S- 5
- (5) 安全にご使用いただくために
 - a. 基本的な注意事項 P= S- 6~ S- 8
 - b. 運転時の注意 P= S- 9
 - c. 作業時の注意 P= S-10
 - d. 点検・整備時の注意 P= S-11~ S- 14

1. 機械の概要

- (1) 概要 P= 1- 1
- (2) AS150MH P= 1- 1
- (3) AS150M P= 1- 1

2. 主要諸元

- (1) 諸元表 P= 2- 1

3. 標準付属品

- (1) 標準付属品一覧表 P= 3- 1
- (2) 付属工具 P= 3- 1
- (3) ノズル P= 3- 1
- (4) ポンプ用パッキンセット P= 3- 1

4. 各部の名称

- (1) 主要部分の名称 P= 4- 1

5. 運転操作と各装置の説明

- (1) 組立方法
 - a. 開梱時の荷姿 P= 5- 1
 - b. 組立方法 P= 5- 1~ 5- 2
- (2) エンジンの始動・停止
 - a. エンジン始動の前に P= 5- 2
 - b. エンジン始動手順 P= 5- 3~ 5- 4
 - c. エンジン停止手順 P= 5- 4

6. 始業点検

- (1) 燃料 P= 6- 1

(2) エンジンオイル	P= 6- 1
(3) オイルカップ	P= 6- 2
(4) オイル（洗浄油）ポット	P= 6- 2
(5) ボルト・ナットなどのゆるみ	P= 6- 2
(6) リリーフ弁	P= 6- 3
(7) 洗浄液	P= 6- 3
(8) 各ホース関係	P= 6- 3

7. 運搬取扱い

(1) 積降し	P= 7- 1
(2) 運搬	P= 7- 1

8. 散布作業の概要

(1) 散布前の準備	P= 8- 1
a. 路面の清掃	P= 8- 1
b. 構造物の保護	P= 8- 1
(2) 散布開始	P= 8- 1
(3) 散布の一時停止	P= 8- 1
(4) 散布の中断（一時的なポンプ洗浄）	P= 8- 2
(5) 散布の終了（完全洗浄）	P= 8- 3

9. 機械の点検・整備

(1) 点検・整備	P= 9-2
a. 使用者の点検および整備の義務	P= 9- 2
b. 日常点検・整備	P= 9- 2
c. 定期点検・整備	P= 9- 2
d. 整備作業記録	P= 9- 2
(2) 点検・整備時期	P= 9- 3
a. 点検整備表	P= 9- 3
(3) ボルトの締付トルクを目安	P= 9- 4
(4) ステンレスボルトの締付トルクを目安	P= 9- 5

10. 保管方法

(1) 長期保管	P=10- 1
----------------	---------

11. トラブルの処置

(1) エンジンの不具合	
a. 開梱時にエンジンオイル漏れ	P=11- 1
b. エンジンが始動しない	P=11- 1
(2) ポンプの不具合	
a. ポンプ内で乳剤が固着	P=11- 1
b. ポンプのオーバヒート（過熱）	P=11- 2
c. 油漏れ	P=11- 2

(3) 吸入の不具合

- a. ストレーナが目詰まり P=11- 3
- b. 吸入パイプ・ホースが目詰まり P=11- 3
- c. 吸入パイプ・ホース取付部のゆるみ P=11- 3
- d. 吸入パイプ・ホースの破損 P=11- 3
- e. ポンプの摩耗 P=11- 3
- f. ポンプおよびリリース弁の油膜不足 P=11- 3

(4) 散布の不具合

- a. 乳剤の分離で沈殿物が多い P=11- 3
- b. リリース弁に乳剤異物が噛み込む P=11- 3
- c. リリース圧の低下 P=11- 3
- c. ノズルの詰まり P=11- 3
- d. 散布圧力の低下 P=11- 3

保証証券

安全上の注意事項

(1) はじめに

本書は、機械を安全に正しくご使用いただくためのものです。

- ・取扱説明書はいつでも参照できるよう、必ず本機に備えつけてください。
- ・製品改良のため、本書の内容とお届けする機械の仕様が一部異なる場合があります。
万一、ご不明な点がございましたら、弊社または弊社指定サービス工場にお問合せください。
- ・本書を汚損または紛失した場合は、弊社または弊社指定サービス工場にご注文してください。
- ・エンジンおよび付属品については、同梱の各取扱説明書をご参照ください。
- ・本機を譲渡される場合は、次の所有者に本書を必ず添付して譲渡してください。
- ・本機はアスファルト乳剤（以下乳剤という）を散布するための専用機として設計・開発されています。

それ以外の目的で使用された場合および機械の誤使用については、機械の安全については保証できません。また、死亡事故や身体傷害、損害についても一切責任を負いません。

(2) 安全警告の記号

右図の記号は「安全警告」を示します。

- ・「安全警告」は人に危害を与える恐れのある危険に注意を喚起するために用いています。
- ・本機には、「安全警告」の記号を含む「安全標識」を貼りつけています。
- ・事前に、本書あるいは本機に貼りつけている「安全標識」の内容を知り、安全上の注意や記号内に描かれた図記号の指示に従ってください。



(3) 警告および絵文字について

「安全にご使用いただくために」や、 危険／ 警告／ 注意

 重要  アドバイスの記号は、特に重要です。

また、※印にも注意してお読みください。

本書の中で使用されている記号は、次の通りです。

警告記号	意味
 危険	回避されなかった場合、死亡または重傷を招く切迫した危険な状態を示します。
 警告	回避されなかった場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態を示します。
 注意	回避されなかった場合、軽傷または中程度の障害の可能性のある危険な状態を示します。
 重要	回避されなかった場合、物損事故の可能性のある状態を示します。 特に注意を促したり、強調したい情報または手順や指示に従わないと、機器・装置が損傷するおそれがある状態を示します。
 アドバイス	運転操作や点検整備などをするうえで、知っておいていただきたいことや知っておくと便利なことを示します。

これらの警告記号がもつ意味をよく理解し、その指示内容に従ってください。

(4) 安全標識表示場所

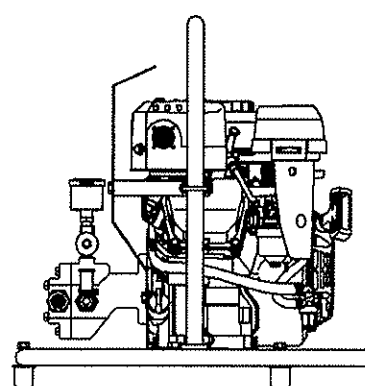
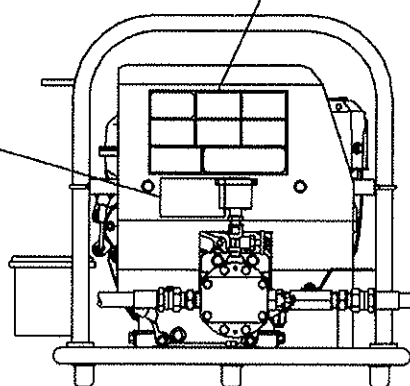
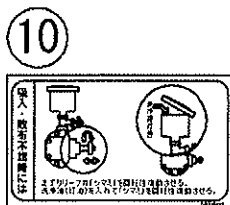
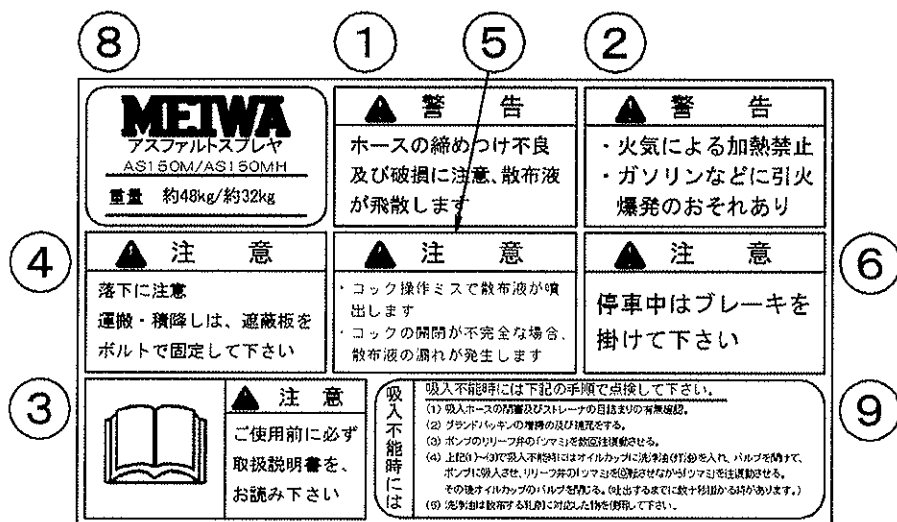
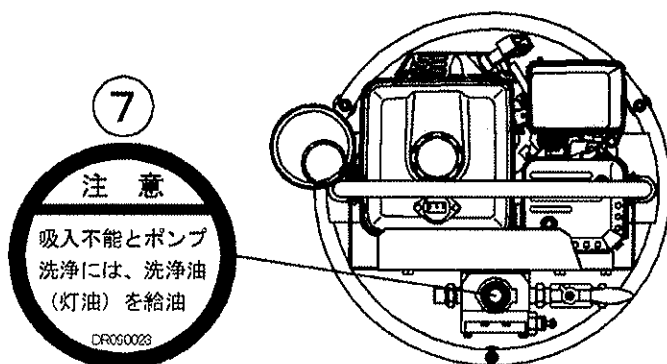
重 要

安全標識はいつもきれいにし、常に読める状態にしてください。

安全標識を汚損または損傷、紛失、読めなくなった場合は、新しいラベルを取り寄せて交換してください。交換するときは、同じものか確認してください。

a. 安全標識・その他注意銘板貼付位置

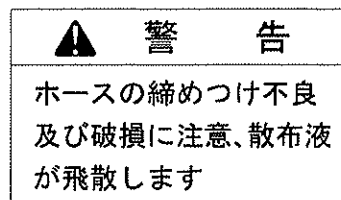
※赤：危険 橙：警告 黄：注意を示します。



b. 安全標識の詳細

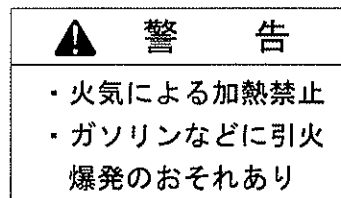
①警告

ホースの締めつけ不良および破損に注意、散布液が飛散します。



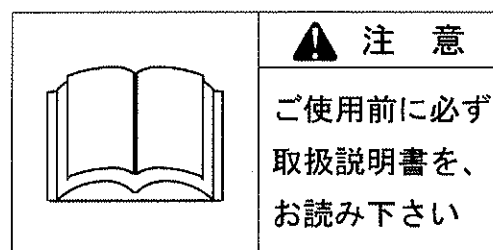
②警告

- ・火気による加熱禁止。
- ・ガソリンなどに引火、爆発のおそれあり。



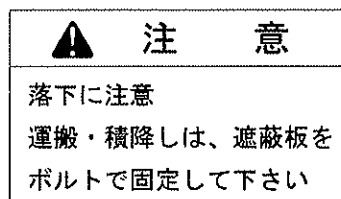
③注意

ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。



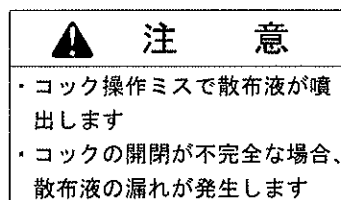
④注意

落下に注意。
運搬・積降しは、遮蔽板をボルトで固定してください。



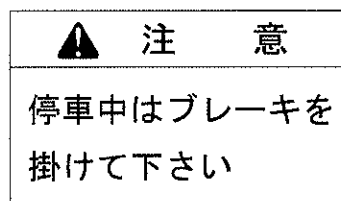
⑤注意

- ・コック操作ミスで散布液が噴出します。
- ・コックの開閉が不完全な場合、散布液の漏れが発生します。



⑥注意

停車中はブレーキを掛けてください。
(AS150Mのみ)



⑦注意

吸入不能とポンプ洗浄には、洗浄油（灯油）を
給油。



c. その他ラベルの詳細

⑧MEIWA

アスファルトスプレヤ

AS150M/AS150MH

重量 約48kg/約32kg

MEIWA

アスファルトスプレヤ

AS150M/AS150MH

重量 約48kg/約32kg

⑨吸入不能時には

吸入不能時には下記の手順で点検してください。

(1) 吸入ホースの閉塞およびストレーナの目詰まりの有無確認。

(2) グランドパッキンの増締めおよび補充をする。

(3) ポンプのリリーフ弁の「ツマミ」を数回往復動させる。

(4) 上記(1)～(3)で吸入不能時にはオイルカップに洗浄油（灯油）を入れ、バルブを開けて、ポンプに吸入させ、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら「ツマミ」を往復動させる。
その後オイルカップのバルブを閉じる。（吐出するまでに数十秒かかる場合があります。）

(5) 洗浄油は散布する乳剤に対応した物を使用してください。

吸入不能時には

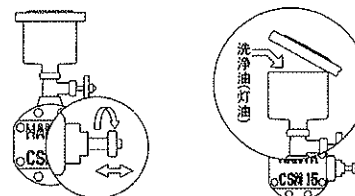
吸入不能時には下記の手順で点検して下さい。

- (1) 吸入ホースの閉塞及びストレーナの目詰まりの有無確認。
- (2) グランドパッキンの増締め及び補充をする。
- (3) ポンプのリリーフ弁の「ツマミ」を数回往復動させる。
- (4) 上記(1)～(3)で吸入不能時にはオイルカップに洗浄油（灯油）を入れ、バルブを開けて、ポンプに吸入させ、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら「ツマミ」を往復動させる。
その後オイルカップのバルブを閉じる。（吐出するまでに数十秒かかる場合があります。）
- (5) 洗浄油は散布する乳剤に対応した物を使用して下さい。

⑩吸入・散布不能時には

まずリリーフ弁「ツマミ」を回転往復動させる。
洗浄油（灯油）を入れて「ツマミ」を回転往復動させる。

吸入・散布不能時には



まずリリーフ弁「ツマミ」を回転往復動させる。
洗浄油（灯油）を入れて「ツマミ」を回転往復動させる。

DRO90028

(5) 安全にご使用いただくために

a. 基本的な注意事項



注 意

ご使用前に必ず取扱説明書を、お読みください。

■ 取扱説明書を読む

運転員およびその他の関係者は、機械を運転および点検する前に取扱説明書をよく読み熟知してください。

また、「安全上の注意事項」以外についても安全には細心の注意をしてください。

■ 取扱い方法を説明する

本機を他人に貸したり、使わせる場合は、あらかじめ本書を読むように指導しましょう。

また、正しい取扱い方法をよく説明しましょう。

■ 主たる用途のみに使用する

本機は、乳剤を散布する機械です。

機械の用途を誤ると、重大な事故や破損事故を招くことになります。

■ 良好な体調で

オペレータが病気・睡眠不足・飲酒などで、正常な運転操作をできないおそれがあるときは、機械の運転操作をしない、させないでください。

■ 担当者を決める

本機の運転操作や取扱いは、本書を熟読され機械の構造や装置の知識を持つ熟練された方がご使用ください。

また、下記条件に適合したオペレータのみが機械を操作してください。

- ① 18才以上であること。
- ② 負傷者の応急手当の訓練を受けて、応急手当ができること。
- ③ 取扱説明書をよく熟読して、十分に理解していること。
- ④ 機械について精通しており、取扱説明書に記載している事故防止と安全指示を理解し実施できること。
- ⑤ 誤動作・誤操作のとき、どのように対処するかを適切に訓練されていること。
- ⑥ オペレータとしての責任、義務を果たし、行動ができること。

■ 作業内容の打ち合わせ

道路工事に携わる人は、安全についてどなたも高い関心を持っておられます。

作業の前には、その日の作業内容を確認し合い、作業段取りに沿った安全作業を心掛けてください。また、機械の安全操作と適正な維持管理で事故を未然に防ぐことができます。

合図者のつく場合には、合図者および合図を十分に確認してください。

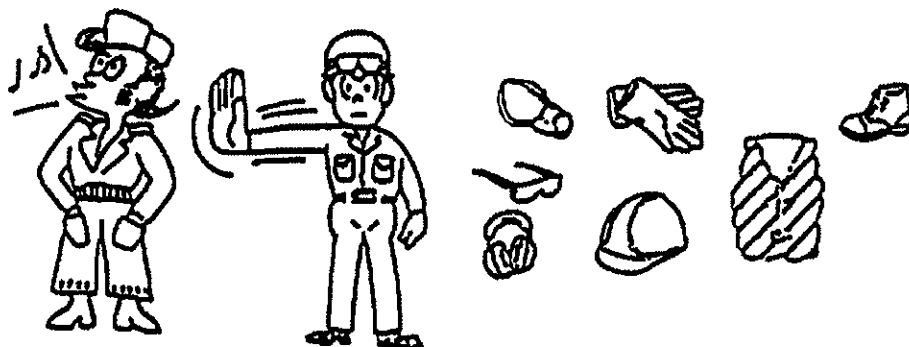
■ 安全の打ち合わせ

- ①工事現場には、安全のために責任と権限を与えられた人が必要です。
その人がどなたかを知り、連絡を取るようになしてください。
- ②作業の前には安全の打ち合わせを行い、全ての合図・信号・標識などの意味を知るようになしてください。
- ③工事現場では、交通ルールを守りましょう。

■ 保護具の着用

安全確保のため、舗装現場では保護帽や安全靴、保護手袋および安全チョッキは必ず着用してください。着用しないと障害のおそれがあります。また、常に身体にあった作業着を着用してください。

作業内容によっては保護メガネ、防塵マスク、防音保護具などを着用してください。



■ 講習・訓練の実施

もし、未熟なオペレータおよびサービスマンが機械を使用または点検・整備する場合、訓練したオペレータおよびサービスマンの監視・指導のもとに機械を取り扱ってください。

また、定期的に講習会などをしてオペレータおよびサービスマンの能力向上に努めてください。

■ 注意銘板をよく読む

機体各部に貼ってある注意銘板などには、人身事故予防のために特に重要な警告が記載されています。点検・整備する前には、注意銘板をよく読んでください。

なくなったり、読めないものがあれば、新しいものを貼りつけてください。

■ 警告絵文字やメッセージが全てではありません

本書の中で危険・警告・注意のお知らせをしています。安全の全てを網羅することは困難です。本書を理解して細心の注意をはらい、人身事故や機械の損傷などが発生しないよう、常に正しい操作と点検整備を心掛けましょう。

■ **万一の人身事故や火災に備えて**

救急箱および消火器を現場には備えつけておいてください。

救急箱および消火器の保管場所と使用方法を事前に調べておいてください。

消火器を確実に使えるように、消火器の取扱説明書に従い、定期点検・整備を行ってください。

人身事故が発生した場合の連絡（救急医、救急車、消防署の電話番号など）や処置の方法を事前に調べておいてください。

■ **密閉空間や半密閉空間で作業するときの注意**

屋内やトンネルなどの換気条件が悪い場所での作業は、ガス中毒の危険があります。屋内やトンネルなどで運転・作業されるときは、適切な換気をしてください。排気管を屋外に延長させたり、必要に応じて換気扇を設置してください。

■ **汚染された地域で作業するときの注意**

廃棄物処理・ゴミ処理場や周辺などの汚染された地域で作業する場合、作業員が健康被害にあわないことを確認してください。

b. 運転時の注意

■ 機械の性能の限界を知る

本書では、主要諸元をお知らせしています。機械の性能の限界を知り、それを越えない正しい運転操作は、安全作業と機械を長持ちさせる秘訣です。

■ 運転前の注意

- ①機械を固い地盤の平坦な場所で停めてください。
- ②エンジン始動前に、周囲に人がいないことを確認してください。
- ③エンジンが充分暖まってから作業を開始してください。

■ 排出ガス排出量の抑制のために講ずべき措置

運転、使用などにあたっては以下の項目について適切に措置を選択して実施に努めてください。

- ①急発進・急加速・急操作の排除に努める。
- ②不要な空ふかしを行わない。
- ③停止の際はアイドリングストップを励行する。
- ④作業効率の良い作業手順で作業する。
- ⑤負荷のかけすぎとなるような作業は行わない。

c. 作業時の注意

■ 作業範囲内立入禁止

重 要

必要に応じ誘導員を配置し、周囲に人を近づけないでください。

作業前に作業範囲内に障害物や人がいないことを確認し、近づかせないでください。

作業現場内は立入禁止とし、作業者以外が立ち入らないよう措置を講じてください。

d. 点検・整備時の注意

■ 始業点検の励行

安全で効果的にお使いいただくために点検要領にそって必ず始業点検をしましょう。

異常があれば修理してから、運転してください。

また、音・臭・油漏れ・水漏れ・熱等普段と違う点に気づいたら、弊社指定サービス工場で点検を受けましょう。

■ 定期点検・整備の実施

事業者は、メーカーの取扱説明書に従って、定期点検・整備を行ってください。

また、定期点検・整備に関する教育・講習も行ってください。

定期点検整備を行ったときは、整備した内容と結果を記録して保管してください。

■ 点検整備方法の理解

本機の所有者は、本機を点検し必要に応じ整備することにより、本機を保安基準に適合するように維持しなければなりません。

誤った整備は、本機の損傷を招くだけでなく、整備中の事故を引き起こす危険があります。

点検・整備を行う前にメーカーの取扱説明書を熟読するとともに、整備方法（安全に作業できる準備、工具、資格、重要部品、作業指揮者の決定、保護具の着用など）を十分に理解し、安全に注意して作業してください。

■ 整備不良機を使用しない

整備不良の機械を使うのは、絶対にやめましょう。人身事故や重大な破損事故を起こすおそれがあります。また作業中、本機に異常が生じたら、そのまま使用せず完全に故障箇所を修理しましょう。弊社は、整備不良機の使用を直接監視、指導することは困難です。

本書を熟読され、あなた様自身で、安全で正しい運転操作を心掛けましょう。

■ 点検・整備中の表示

機械を点検・整備する場合、当事者以外の人が必要に気づかれないよう、「点検・整備中」または「始動・運転禁止」などの警告札を見やすいところに表示してください。

■ 乳剤に対応した洗浄油をご使用ください

洗浄油は使用する乳剤に対応した洗浄油をご使用ください。

乳剤と洗浄油が対応していない場合、アスファルトポンプ（以下ポンプという）に過負荷がかかります。

対応した洗浄油に関しては乳剤メーカーにお問合せください。

■ 作業場所の整理・清掃

乱雑な作業場所で作業をすると、けがや転倒などの危険があります。

作業現場には作業に必要なもの以外は置かないでください。また、グリース、油脂、塗料類は取り除き、安全に作業できるように整理・清掃してください。

■ 作業は平坦な場所で

①点検・整備作業は、危険のない固い地盤の平坦な場所で行ってください。

②エンジンを停止させてください。

③ブレーキを掛けてください。

■ ホースの定期交換

本機で使用されるホースは、材質の経年変化や繰り返し使用による劣化、疲労や摩耗のために破損するおそれがあります。定期的に交換してください。

定期交換を怠ると、火災や高圧油の皮膚への浸透による壊疽のおそれがあります。

■ 引火性の油類を正しく管理する

本機では、ガソリン・灯油などの引火性の油類を使用しています。

使用上の注意をお守りいただき安全運転操作に努めましょう。

燃料補給中は禁煙です。火気を近づけないでください。

燃料補給中はエンジンを停止してください。

燃料などのキャップはしっかりと確実に締めてください。

■ 火災の防止

整備時には、燃料など引火の危険のあるものを取り扱います。次の注意を守ってください。

①火気の近くに可燃性の油脂を置かない。

②引火のおそれがある火気は消す。

③消火器などの消火用具を用意する。

④点検・整備中は禁煙。

⑤燃料、油脂などの点検には、防爆仕様の照明器具を使用する。

⑥燃料などを補給するときは、エンジンを停止し、補給後はキャップをしっかりと確実に締める。

⑦可燃性の油脂が入っているパイプ、チューブおよびタンクなどを溶接したりガス切断をしない。

■ 油漏れの点検

燃料や潤滑油の漏れは火災を起こして火傷するおそれがあります。ホースの損傷やゆるみがないか点検してください。

■ 安全装置や保安部品を本体から取り外さない

運転操作や点検整備の邪魔になるからと、安全装置や保安部品を取り外すことは、絶対にやめましょう。

■ **エンジンをかけた状態で整備をしない**

動いている部品に触れると、挟まれたり巻き込まれたりして危険です。本機を整備するときは、エンジンを停止してください。

■ **エンジンをかけての整備は二人以上で**

やむを得ずエンジンをかけたまま整備する場合は、いつでもエンジンを停止できる状態で、お互いに連絡をとり合って作業してください。

■ **エンジンを停止する**

洗浄作業を除く他の清掃、給油、点検整備などの作業では、必ずエンジンを停止しましょう。巻き込まれや引火などのおそれがあります。

■ **換気に注意**

屋内や換気条件が悪い場所での整備時は、ガス中毒の危険があります。

とくにエンジンの排気ガス、燃料、洗浄油、塗料類には換気を充分に行ってください。

屋内で整備や運転をするときは、適切な換気をしてください。排気管を屋外に延長させ、ドアや窓を開け外気が充分入るようにしてください。

必要に応じて換気扇を設置してください。

■ **ハンマ作業は破片に注意**

ベアリングやピンなどの固い金属を打撃するときは、破片が目に入って負傷するおそれがあります。このような作業では、周囲の人に危険が及ばないことを確認し保護メガネをかけ、真鍮棒などをハンマとの間にかまして打撃してください。

■ **整備後の注意**

- ①整備後はエンジンを低回転で運転し、整備箇所の油漏れ、水漏れなどがいないことを確認してください。
- ②各操作レバーをゆっくりと動かし、作動の確認を行ってください。
- ③エンジン回転を上げ、油漏れ、水漏れなどを確認してください。

■ 廃棄物の処理

本機の廃棄物は有害物質を含んでおり、むやみに捨てると環境を汚染します。

本機から廃液を抜く場合は、地面にたれ流さないで容器に受けてください。

また、廃油、燃料、冷媒、溶剤、フィルタその他の有害物を捨てるときは、所定の規則に従って処理してください。

正しく処理することにより、人々と環境への悪影響を防いで貴重な原料を再利用することができます。

(a) 油、グリースおよび燃料

油、グリースおよび燃料は油脂の仕様により規則に従って処分してください。

(b) 材料（金属、プラスチック）

これらの材料を正確に処分できるように、種類により分類しなければなりません。材料に付着している他の物質を除去してください。規則に従って材料を処分してください。

■ 改造・溶接の禁止

性能、安全、強度に影響する改造をメーカーに無断で行うと、機体の破損、転倒などにより人身事故の原因となるおそれがあります。無断で本体を改造しないでください。

改造・溶接による補修等の必要な場合は、事前にメーカーに相談してください。

また、溶接すると電子機器部品の損傷のおそれがあります。

メーカーに無断で改造・溶接をしたときは、保証の対象外となります。

■ 純正部品

点検・整備時に部品交換するときは、純正部品を使用してください。

純正部品以外を使用したときは、性能・安全の保証ができません。

1. 機械の概要

(1) 概 要

アスファルトスプレヤASシリーズは、小規模の乳剤散布用です。ガソリンエンジンを動力源とし、アスファルトポンプによって乳剤をフィルム状に手撒き散布する機械です。

(2) AS150MH

AS150MHは、重量約32kgの小型ハンディ式で、乳剤容器に吸入ホースを差し込んで散布します。容器への戻りホースはなく、ポンプにリリーフ弁を内蔵しています。

また、ポンプやホース洗浄用のオイルカップを備えています。

(3) AS150M

AS150Mは、AS150MHを台車に装着し、移動の多い小規模散布用で乳剤容器（1斗缶など）を積むことができます。ポンプやホース洗浄用の専用ポリ缶を備えています。

2. 主要諸元

(1) 諸元表

型 式		AS150MH	AS150M
散 布 能 力		扇形：約15ℓ/min 円形：約8ℓ/min	
散 布 圧 力		約0.26MPa	
ノ ズ ル 数		扇形・円形：各1	
ジョイント散布装置		無	
重 量		約32kg	約48kg
寸 法	全 長	535mm	1,025mm
	全 幅	480mm	520mm
	全 高	495mm	745mm
エ ン ジ ン	形 式	三菱メイキ GB131LN	
	総 排 気 量	126cc	
	連 続 定 格 出 力	2.3kW/1,800min ⁻¹	
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃 料 消 費 率	320g/kW・h	
	燃 料 タ ン ク 容 量	2.5ℓ	
	始 動 方 式	リコイルスタータ式	
アスファルトポンプ		ギヤ式	
リ リ ー フ 弁		直動形	
ポ ン プ 洗 淨		オイルカップ	
洗 淨 容 器		無	10ℓ ポリ容器
ホース：散布側×吸入側		5m×2.5m	
タ イ ヤ		無	前輪：φ100 ブレーキ付 後輪：φ200

3. 標準付属品

(1) 標準付属品一覧表

下記の部品を標準付属品として装備しています。

	名 称	数 量	備 考
1	付属工具	1 式	
2	ノズル	各 1 個	扇形・円形
3	ポンプ用パッキンセット	1 式	予備品

(2) 付属工具

	名 称	型 式	数 量	備 考
1	六角レンチ	3 mm	1 本	
2	モンキーレンチ	2 5 0 mm	1 本	
3	エンジン付属工具	エンジン用	1 式	

主にボルト・ナットの増し締めや、部品の交換にレンチ等を使用します。

付属工具は、点検・手入れをして保管してください。

(3) ノズル

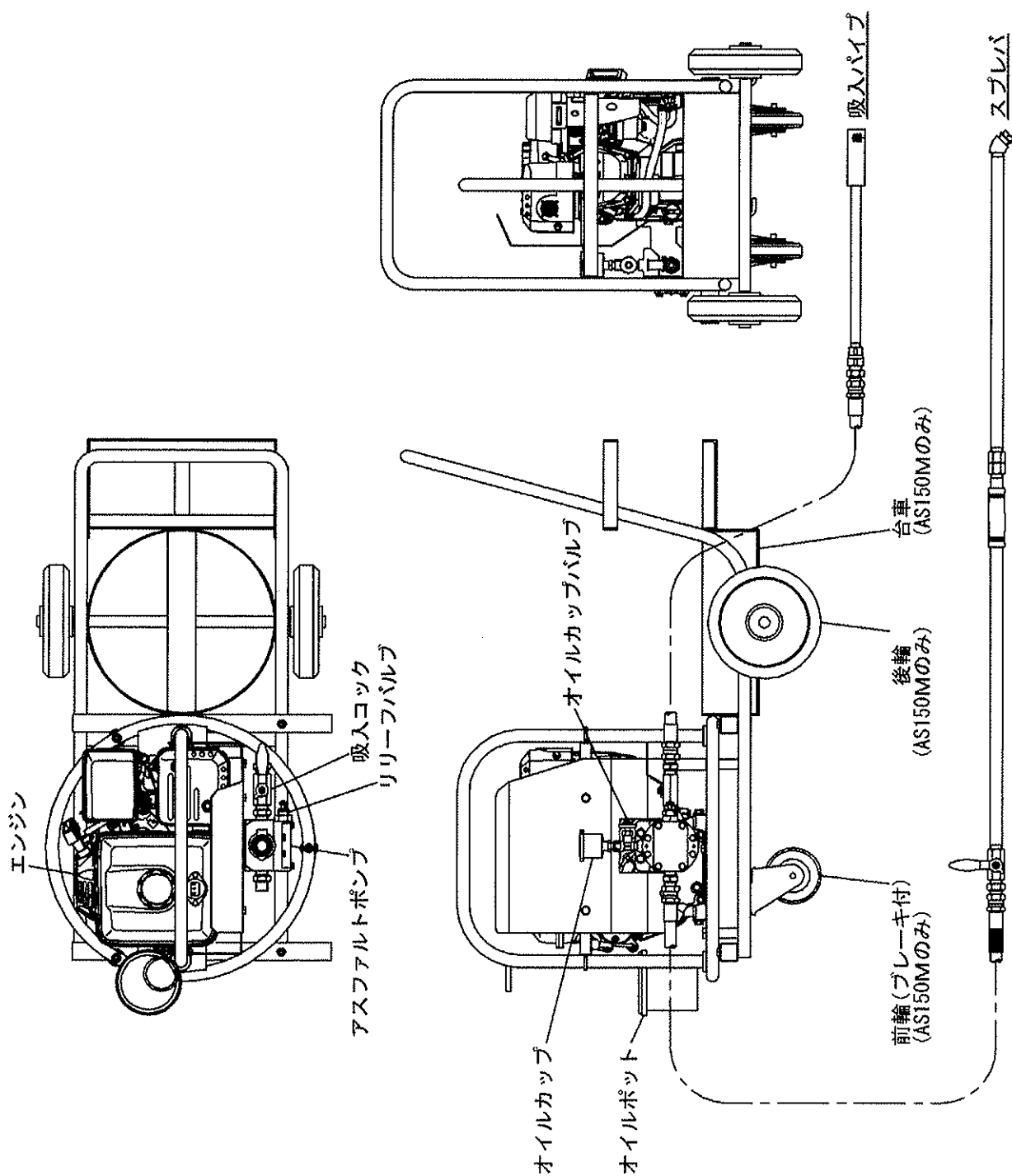
ハンドスプレバ用のノズルです。扇形ノズルと円形ノズルを各 1 個ずつ付属しています。

(4) ポンプ用パッキンセット

アスファルトポンプ用パッキンの予備品一式です。

4. 各部の名称

(1) 主要部分の名称



5. 運転操作と各装置の説明

※エンジンおよび付属品についての詳細は、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

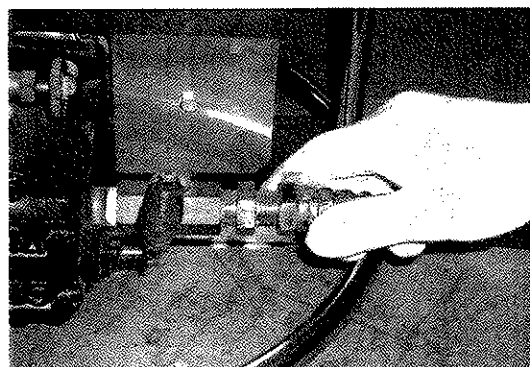
(1) 組立方法

a. 開梱時の荷姿

	名 称	数 量	備 考
1	本体取扱説明書・パーツリスト	1 部	
2	エンジン取扱説明書	1 組	付属工具付
3	本体	1 式	
4	吸入パイプ	1 本	ストレーナ付
5	吸入ホース	1 本	2.5 m
6	散布ホース	1 本	5 m
7	ハンドスプレバA	1 本	エルボ付
8	ハンドスプレバB	1 本	散布コック付
9	ノズル	各1個	扇形・円形
10	付属工具	1 式	
11	ポンプ用パッキンセット	1 式	

b. 組立方法

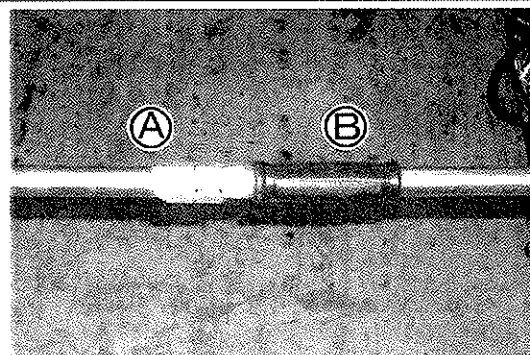
- (a) 吸入パイプ、吸入ホース、ハンドスプレバ、散布ホースのダストキャップを外します。
- (b) 吸入パイプのホースアダプタに吸入ホースの取付金具をねじ込み、モンキーレンチで締めつけます。
- (c) この吸入ホース Ass'y をポンプの吸入側バルブが取り付けられている側のホースアダプタ（ポンプに向かって右側）にねじ込み、モンキーレンチで締めつけます。
- (d) ノズルをハンドスプレバAのエルボにねじ込み、モンキーレンチで締めつけます。



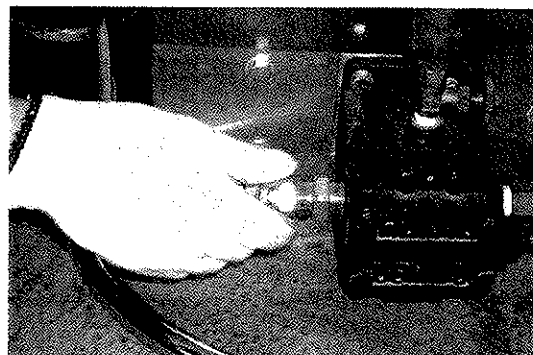
アドバイス

乳剤はノズル先端のスリットに沿ってフィルム状に散布するので、使い易い角度に調整してください。

- (e) ハンドスプレバAをハンドスプレバBにねじ込み、モンキーレンチでソケットを締めつけます。
- (f) ハンドスプレバBのホースアダプタに散布ホースの取付金具をねじ込み、モンキーレンチで締めつけます。



(g) この組み立てたハンドスプレバ Ass'y をポンプの吐出側ホースアダプタ（ポンプに向かって左側）にねじ込み、モンキーレンチで締めつけます。



(2) エンジンの始動・停止

a. エンジン始動の前に



警告

室内など換気の悪い場所では、エンジンを始動・運転しないでください。排気ガスには、有害な一酸化炭素などが含まれ、中毒を起こすおそれがあります。



注意

- ・ 本機の手扱いは、取扱説明書をよく熟読し、よく訓練された有能なオペレータが行ってください。
- ・ エンジン運転中は、本機から離れないでください。離れる場合はエンジンを停止してください。
AS150Mはブレーキをかけてください。逸走するおそれがあります。
- ・ 散布コックとオイルカップバルブを閉じていないと、エンジンを始動したときに乳剤が噴射します。各コック・バルブが閉じているか確認してください。
- ・ エンジン運転中およびエンジン停止直後はマフラカバーに触れないでください。火傷するおそれがあります。

重要

- ・ エンジンを始動する前には必ず、始業点検を行ってください。
- ・ エンジンが異常音などを出して停止したときは、その原因を明らかにし、不具合箇所を修理してから再始動してください。

(a) オイルカップバルブを閉じて吸入コックを開き、散布コックを閉じます。

(b) ストレーナ付吸入パイプを乳剤容器に差し込みます。

アドバイス

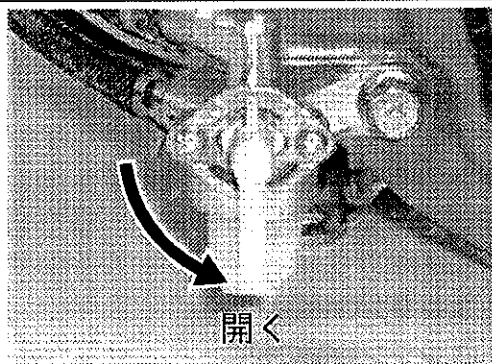
ドラム缶より吸入するときは、ストレーナ部をすぐ底につけず、徐々に上から下へ移動させると砂や乳剤の分離による沈殿物がストレーナに詰まることなく、吸入不良の防止に有効です。

b. エンジン始動手順

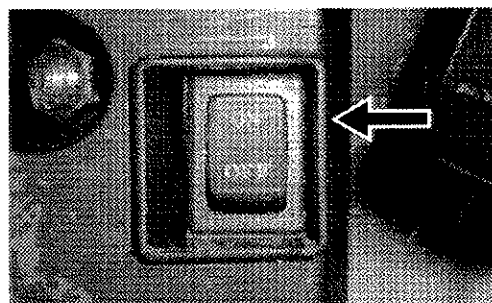
重 要

機械周辺に人がいないことを確認してから、エンジンを始動してください。

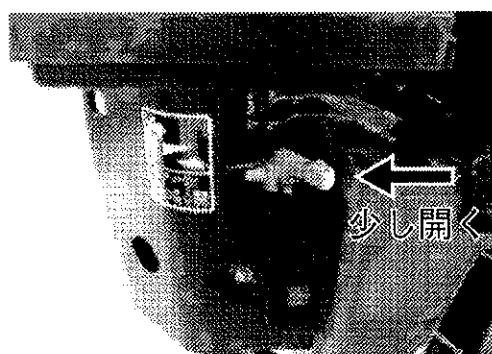
(a) 燃料コックを開きます。



(b) エンジンスイッチを始動側（ON）にします。

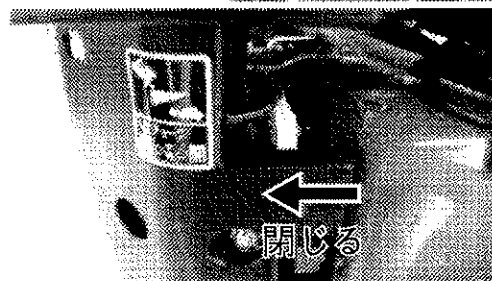


(c) スロットルレバーを高速の方に少し開きます。

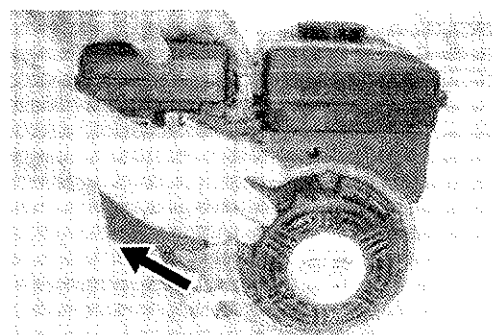


(d) チョークレバーを全閉にします。

※暖かいときや運転停止直後再始動する場合は、
全開もしくは半開にして始動を試みてください。



(e) スタータグリップを握り圧縮位置まで軽く引き、
この位置から勢い良く引っ張ります。
エンジンが始動したらスタータグリップをゆっ
くりと元の位置に戻します。



(f) エンジンが始動したら、エンジンの調子をみながら徐々にチョークレバーを全開の位置に戻してください。

- ・ 運転調子が安定しない場合は、チョーク半開位置で暖機運転し、様子を見てください。
- ・ エンジン始動後は必ずチョークレバーが全開になっていることを確認してください。チョークを閉じた状態で運転するとエンジン不調の原因となります。

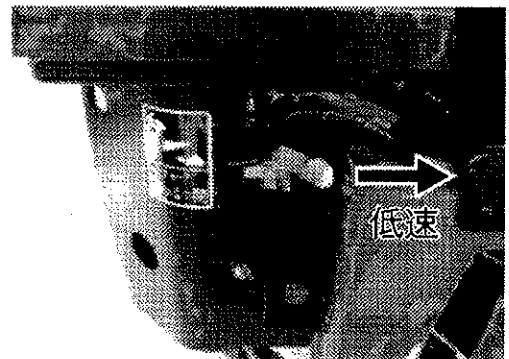
アドバイス

エンジン始動後、負荷をかけずに約5分程度暖機運転してください。

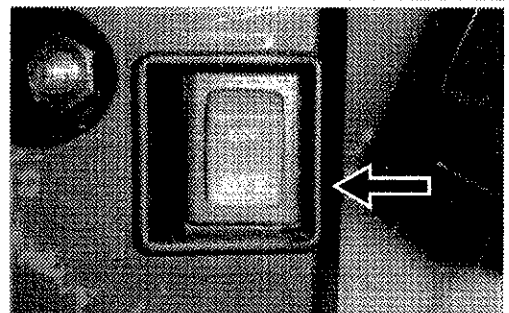
また、暖機運転終了後は、所要の回転速度にスロットルレバーを合わせご使用ください。

c. エンジン停止手順

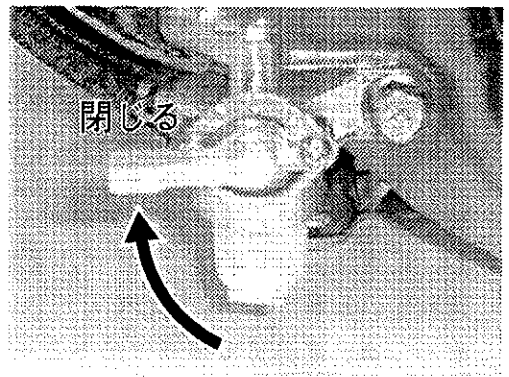
(a) スロットルレバーを低速の位置にして、1～2分間運転します。



(b) エンジンスイッチを停止側（OFF）にします。
または、キースwitchを停止位置（OFF）にします。



(c) 燃料コックを閉じます。



6. 始業点検

使用中の故障や事故を防止し、安全な運転、排ガスの性能が悪化しないようにするため、日常（始業）点検・整備を実施してください。

※エンジンおよび付属品についての詳細は、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

 注 意	本機の点検作業は、取扱説明書をよく熟読し、よく訓練された有能なオペレータまたはサービスマンが行ってください。
--	--

重 要	・点検作業は、危険のない平坦で堅固な場所で行ってください。 ・エンジン始動の前に、燃料・オイルなどが適正な状態（量）にあるか点検してください。 ・機械の周囲を一回りし、損傷や漏れの有無を点検することも大切です。
---	---

(1) 燃 料

 警 告	・燃料の給油は、必ずエンジンを止めてください。エンジンスパークやマフラーあるいは煙草の火などから引火するおそれがあります。 ・こぼれた油を拭き取ってください。給油後は燃料タンクキャップを確実に締めてください。 ・給油中は、火気を近づけないでください。 ・給油中は、タバコを吸わないでください。
--	---

重 要	・古いガソリンは使用しないでください。エンジンの故障の原因となります。 ・ガソリンにアルコールなどを混ぜないでください。 ・燃料タンクに給油するときは、ガソリンをあふれさせないように注意してください。（上部に数センチ空間をあけてください。）
---	--

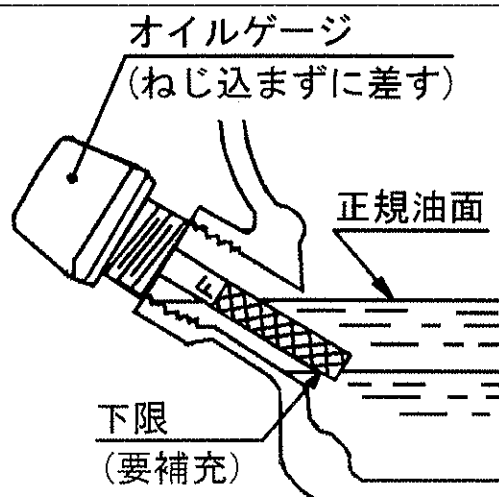
燃料タンクに自動車用無鉛ガソリンを給油します。（タンク容量：約2.5ℓ）

(2) エンジンオイル

アドバイス	エンジンオイルの廃油は、容器に受けてください。 環境基準に従って公害にならないように廃棄処理してください。
---	--

給油プラグを外してオイルゲージで油量を確認し、正規油面までエンジンオイルを給油します。汚れている場合は、交換してください。オイルは、高品質で清浄性のあるAPI分類SE級以上を使用してください。

（クランクケース給油量：約0.5ℓ）



(3) オイルカップ

重 要

- ・オイルカップバルブは、本書記載の用途で使用する場合を除き、常に閉じておいてください。
- ・エンジンやポンプの空運転（オイル不足の状態）は、適切な潤滑ができず、焼つきトラブルを起こす原因になります。
- ・洗浄油（灯油）などが多量に乳剤に混入すると、乳剤の品質を低下させるおそれがあります。

オイルカップバルブを開き、オイルカップに洗浄液（灯油）を給油します。

（カップ容量：約50cc）



アドバイス

リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引くと、ポンプ内のギヤが回転しスムーズに給油することができます。

(4) オイル（洗浄油）ポット

アドバイス

オイルポットは乳剤の垂れによる汚損防止に使用しますが、ストレーナやノズルの乳剤固着防止にも使用できます。

オイルポットに洗浄油（灯油）を入れて、吸入パイプのストレーナおよびハンドスプレバのノズルを差し込みます。

（ポット容量：約300cc）



(5) ボルト・ナットなどのゆるみ

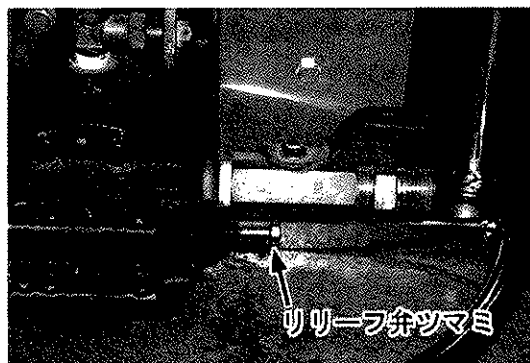
重 要

- ・取付金具などにゆるみやガタがあると、乳剤が漏れたり、ホースが抜けて乳剤が飛散するおそれがあります。
- ・ホースは、弊社純正部品もしくは弊社推奨部品を使用してください。損傷により乳剤が飛散するおそれがあります。

- エンジンやポンプなどの各部締付ボルト・ナットがゆるんでないかを確認し、必要に応じて増締めをします。
- 吸入パイプや吸入・散布ホースなどの取付部がゆるんだり損傷していないかを確認し、損傷品は交換します。

(6) リリーフ弁

リリーフ弁のツマミを軽く引き、正常な状態（戻りがある）を確認してください。



アドバイス

リリーフ弁のゴミ詰まりには、ツマミを回転させながら数回往復動します。

(7) 洗浄液



警告

洗浄液に揮発性、引火点の低いガソリンなどを使用しないでください。
引火・爆発のおそれがあります。

洗浄液には、洗浄油（灯油）を給油します。（洗浄液タンク容量：10ℓ）

（AS150Mは洗浄用ポリ缶、AS150MHの容器は別売りです。）

重要

灯油等は有害物質を含んでおり、むやみに捨てると環境を汚染します。
地面にたれ流さないで必ず拭き取ってください。
また、廃油、その他の廃棄物は、所定の法律に従って処理してください。

(8) 各ホース関係



警告

ホースの破損、取付不良に注意してください。乳剤が飛散し、負傷・汚損のおそれがあります。

各ホースのホースバンド等は締まっているか、漏れがないか点検します。

7. 運搬取扱い

(1) 積降し

 注 意	使用後は、エンジンの周囲は熱く、触れると火傷のおそれがあります。 冷えてから積込みをしてください。
--	--

重 要	・ 本体を傾けないでください。洗浄油（灯油）がこぼれたり、乳剤容器が倒れるおそれがあります。 ・ エンジンを横積みまたは傾けた状態で運搬すると、エンジンからエンジンオイルが漏れ出すおそれがありますので注意してください。
------------	---

(2) 運 搬

 注 意	・ 運搬時は、台車のブレーキをかけ、ロープで荷台に固定してください。トラックがブレーキをかけたときやカーブのときなどに本機が移動し、落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。（AS150M） ・ 運搬時は、燃料タンク・オイルカップなどの蓋がゆるんでないことを確認し、散布・吸入コックを閉じてください。こぼれたり、漏れて汚損や引火するおそれがあります。
---	---

8. 散布作業の概要

※散布作業の前に、本項や「安全上の注意事項」、「運転操作と各装置の説明」、「始業点検」やエンジン等の各取扱説明書をよくお読みいただきから、散布作業を開始してください。



注 意

散布作業は、取扱説明書をよく熟読し、よく訓練された有能なオペレータが行ってください。

(1) 散布前の準備

散布作業を開始する前に、路面の清掃、構造物の保護など、散布前の準備をします。

a. 路面の清掃

路面に散在する碎石や砂を取り除き、水や埃などは散布ムラ発生の原因になるので、スローパ等で清掃します。

b. 構造物の保護

側溝、縁石、ガードレール、電柱など、乳剤付着のおそれがある構造物には、紙、ビニールシートなどで保護します。

(2) 散布開始



注 意

- ・ 散布コックは、徐々に開いてください。急に開くと思わぬ勢いで乳剤がノズルから噴射することがあります。
- ・ 傾斜地の散布作業や停止、中断などではブレーキを使用してください。転倒や逸走のおそれがあります。(AS150M)

重 要

作業中、散布ホースを引っ張らないでください。取付部の破損や本体の転倒などのおそれがあります。

- エンジンを開始します。
- ハンドスプレバを持ち、散布体勢に入ります。
- ハンドスプレバの散布コックを開いて、散布作業を行います。

(3) 散布の一時停止

重 要

- ・ エンジン回転が高速回転の状態では散布コックを閉じると、リリーフ弁内のポペットやスプリングの「ヘタリ」が早くなり、寿命が極端に短くなります。
- ・ 散布の一時停止は、最長2～3分までにしてください。乳剤の分離でリリーフ弁内のポペットに乳剤異物が噛み込むことがあります。

アドバイス

ハンドスプレバの散布コックを閉じると、乳剤はリリーフ弁を介してポンプ内で循環します。

- スロットルレバーを低速にします。
- ハンドスプレバの散布コックを閉じます。

(4) 散布の中断（一時的なポンプ洗浄）

重 要

この空気洗浄は、乳剤を排出したらすぐ中止してください。ポンプは空運転の状態になっています。（焼つきのおそれがあります）

- a. スロットルレバーを低速にします。
- b. 吸入パイプを乳剤容器から抜いて、ストレーナから空気を吸入し、吸入・散布ホースとポンプ内の乳剤をすべて排出します。
- c. エンジンを停止します。
- d. オイルカップバルブを開きます。
- e. オイルカップに洗浄油（灯油）を給油します。
- f. 吸入コックを閉じて、散布コックを開きます。
- g. リコイルスタータハンドル（始動ノブ）をゆっくり引いてポンプを回し、ハンドスプレバのノズルから洗浄油（灯油）をオイルポットや別な容器に排出します。
- h. この一時的なポンプ洗浄後は、吸入パイプのストレーナ部とハンドスプレバのノズル部をオイルポットに差し込みます。

重 要

ストレーナ部を地面に置くことはやめてください。土や砂を付着したまま吸入すると、ポンプが摩耗し寿命が極端に短くなります。

アドバイス

オイルポットに洗浄油（灯油）が入っていると、ストレーナやノズルのアスファルト固着防止に有効です。

- i. 再度、散布開始するときは、オイルカップバルブを閉じて吸入コックを開き、散布コックを一旦閉じます。
- j. エンジンを再始動します。

(5) 散布の終了（完全洗浄）

重 要

ストレーナやノズル、ポンプ、リリース弁のアスファルト固着防止のため、散布作業終了時には必ず完全洗浄を行ってください。

- a. スロットルレバーを低速にします。
- b. 吸入パイプを乳剤容器から抜いて、ストレーナから空気を吸入し、吸入・散布ホースとポンプ内の乳剤をすべて排出します。
- c. 別の洗浄容器に洗浄油（灯油）を約 7～8ℓ 用意します。
（AS150Mは洗浄用ポリ缶、AS150MHの容器は別売りです。）
- d. 吸入コックと散布コックを閉じ、この洗浄容器に吸入パイプのストレーナ部とハンドスプレバのノズル部を差し込みます。
- e. 吸入コックと散布コックを開き、吸入・散布ホースとポンプ内に洗浄油（灯油）を通して循環洗浄します。

アドバイス

この循環洗浄は、約 2～3 分間行ってください。

- f. 吸入パイプのみをこの洗浄容器から抜いて、吸入・散布ホースとポンプから洗浄油（灯油）を排出します。
- g. エンジンを停止して、吸入パイプのストレーナ部とハンドスプレバのノズル部をオイルポットに差し込んでおきます。

9. 定期点検・整備

重 要	※補修部品の供給年限について この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、生産打ち切り後10年です。ただし、供給年限内であっても納期などをご相談させていただく場合があります。 また、供給年限経過後の製品で補修用部品が必要となりご注文頂いた場合には、納期および価格をご相談のうえで、ご注文に応じさせていただくこともあります。
---	---

※エンジンおよび付属品についての詳細は、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

注 意	本機の点検作業は、取扱説明書をよく熟読し、よく訓練された有能なオペレータまたはサービスマンが行ってください。
---	---

重 要	・点検作業は、危険のない平坦で堅固な場所で行ってください。 ・日常の手入れや点検・整備の不備は、重大事故や破損事故を招くおそれがあります。是非、点検・整備要領に沿って実施してください。 ・点検・整備を行うときは安全のために、必ず保護具を着用してください。 ・本機を点検・整備するときは、エンジン停止を基本原則にしてください。思わぬところが不意に起動し、重大事故を招くおそれがあります。 ・プラグ類を外すときは、容器を準備し、配管の圧力を抜いてから行ってください。 ・本機を独自に改造しないでください。安全性を損なったり、機能や寿命の低下を招くことになります。 ・環境保護のため、廃油、廃液、廃物の処分は、関係法令の他、所定のルールに従ってください。
---	--

アドバイス	・点検・整備中は、第三者による誤作動を防止するため、「点検中」の札を下げて、周囲に注意を促してください。 ・点検・整備は、設備の整ったサービス工場で行ってください。
---	---

(1) 点検・整備

重 要

- ・機械の性能を維持し安全に運行するため、点検・整備を実施してください。
- ・重要な箇所、複雑な箇所の点検・整備は、弊社サービス工場で実施してください。

a. 使用者の点検および整備の義務

機械の所有者は、機械を点検し、必要に応じ整備することにより、保安基準に適合するように維持しなければならない。

b. 日常点検・整備

機械を運行する者は、日常点検・整備に基づいて技術上の基準により機械を点検しなければならない。

c. 定期点検・整備

機械の使用者は定期的（6ヶ月、12ヶ月）に技術上の基準により機械を点検し、必要な整備を実施し、その結果を1年間保存しなければならない。

d. 整備作業記録

点検・整備一覧表により整備した内容と結果を、本様式を参考にして記録し保管してください。

期間 (ヶ月)	使用時間 (h)	整備日 (年月日)	整備内容 (項目と結果)	整備者 (氏名)

(2) 点検・整備時期

本表の点検・整備時期は、一般的な稼動（100H 程度稼動/6ヶ月）を基準に設定しています。
過酷な条件での使用など、設定基準と著しく異なる場合は、早めの点検整備が必要です。

重 要	・「●」印は、弊社が推奨する点検整備時期を示します。 ・20時間点検は、ほぼ1ヵ月を超えない期間毎に、異常の有無と損傷の有無をチェックして、正常な状態にリフレッシュします。 ・100時間点検は、ほぼ半年、200時間点検は、ほぼ1年を超えない期間毎に、異常や故障箇所を正常な状態に補修して、次の半年、1年に備えます。 ・スプレバ等を使用している配管および配管部材は、経年変化による劣化や腐食（侵食）および流速による「肉厚減少」が発生するため、定期的な部品交換が必要です。 ・点検整備記録は、実施の都度記入し、大切に保管（3年以上）してください。
------------	---

a. 点検整備表

点 検 整 備 項 目	20h 毎 (毎月)	100h 毎 (半年)	200h 毎 (1年)	備 考
エンジン	※別冊エンジンの取扱説明書をご参照ください。			
リリース圧 オリング			●	
ポンプ用ピラーパッキンの調整・補充	●			
ポンプ用グラウトパッキン・ピラーパッキンの交換		●		
ボルト・ナット増し締め				※適時増し締め

(3) ボルトの締付トルクの目安

ネジの種類	ネジサイズ	締 付 ト ル ク					
		8.8 T		10.9 T		12.9 T	
	呼 び 名 × ピッチ mm mm	N・m	kg f・m	N・m	kg f・m	N・m	kg f・m
並 目	M 3 × 0.5	1.19	0.12	1.70	0.17	1.99	0.20
	M 4 × 0.7	2.77	0.28	3.96	0.40	4.63	0.47
	M 5 × 0.8	5.60	0.57	8.01	0.82	9.36	0.96
	M 6 × 1	9.51	0.97	13.6	1.39	15.9	1.62
	M 8 × 1.25	23.0	2.35	33.0	3.37	38.6	3.94
	M10 × 1.5	45.7	4.66	65.4	6.67	76.5	7.81
	M12 × 1.75	79.7	8.13	114	11.6	133	13.6
	M14 × 2	126	12.9	181	18.5	212	21.6
	M16 × 2	198	20.2	283	28.9	331	33.8
	M18 × 2.5	282	28.8	390	39.8	455	46.4
	M20 × 2.5	399	40.7	553	56.4	646	65.9
	M22 × 2.5	543	55.4	752	76.7	879	89.7
	M24 × 3	691	70.5	956	97.6	1110	113
	M30 × 3.5	1373	140	1899	194	2220	227
細 目	M 8 × 1	25.0	2.56	36.0	3.68	42.0	4.30
	M10 × 1.25	49.0	5.02	70.0	7.19	82.0	8.41
	M12 × 1.5	85.0	8.68	122	12.4	142	14.5
	M14 × 1.5	139	14.2	199	20.4	234	23.8
	M16 × 1.5	214	21.8	306	31.2	358	36.5
	M18 × 2	305	31.2	422	43.1	493	50.3
	M20 × 2	427	43.6	592	60.4	691	70.5
	M22 × 2	578	59.0	801	81.7	936	95.5
	M24 × 2	762	77.8	1055	108	1225	125
	M30 × 3	1443	147	1996	204	2334	238

(4) ステンレスボルトの締付トルク目安

ボルト ネジの呼び	締 付 ト ル ク	
	N・m	kgf・m
呼 び × ピ ッ チ mm mm		
M 3 × 0.5	0.80	0.082
M 4 × 0.7	1.86	0.19
M 5 × 0.8	3.82	0.39
M 6 × 1	6.47	0.66
M 8 × 1.25	15.7	1.00
M10 × 1.5	31.1	3.17
M12 × 1.75	54.2	5.53
M14 × 2	86.1	8.79
M16 × 2	134	13.72
M18 × 2.5	185	18.88
M20 × 2.5	262	26.76
M22 × 2.5	357	36.41
M24 × 3	454	46.28
M27 × 3	663	67.69

10. 保管方法

※エンジンおよび付属品についての詳細は、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

(1) 長期保管

- a. エンジンの燃料タンクのカソリンおよびキャブレター内のガソリンを空にしてください。
- b. オイルカップバルブを開いて、オイルカップにエンジンオイルを給油してください。

アドバイス	ポンプ内の錆の発生や凍結防止に有効です。
--------------	----------------------

- c. オイルポットの内溶液や沈殿物を排出してください。

1 1. トラブルの処置

※エンジンおよび付属品についての詳細は、別冊の各取扱説明書をご参照ください。

重 要	・ ノズルは、AS150MH/AS150M用のノズルをご使用ください。 同じ口金のサイズでも他のノズルとは、吐出量が異なる場合があります。 ・ 洗浄油には、灯油をご使用ください。使用する乳剤によっては、灯油以外の洗浄油を使用すると固着の原因になります。
------------	--

アドバイス	異常や故障などの不具合が生じた場合は、弊社指定サービス工場で点検・修理を行いましょう。(特に*の場合)
--------------	---

(1) エンジンの不具合

a. 開梱時にエンジンオイル漏れ

重 要	エンジンを横積みすると、エンジンからエンジンオイルが漏れ出すおそれがありますので注意してください。
------------	---

運搬時に横積みしないでください。

b. エンジンが始動しない

(a) リコイルスタータが軽く回る場合

① エンジンスイッチがOFF（停止）であれば、ON（始動）にします。

② 燃料タンクに間違えて混合ガソリン等を入れてしまった場合は、燃料タンクおよびストレーナカップ、キャブレターの燃料を全て抜いてください。
その後、自動車用無鉛ガソリンを給油してください。

③ 燃料を入れたまま長期保管していた場合は、キャブレター内で目詰まりしているおそれがあります。燃料を抜いて、新しい燃料を補給してください。それでもエンジンが始動しない場合はキャブレターの洗浄または交換を行ってください。

(b) リコイルスタータが重い場合

ポンプ内で乳剤が固着しているおそれがありますので、オイルカップから洗浄油（灯油）を給油し、ポンプ内を洗浄してください。

(2) ポンプの不具合

a. ポンプ内で乳剤が固着

 警 告	ポンプをバーナで加熱しないでください。ポンプに歪みが発生したり、ガソリン、灯油などに引火・爆発するおそれがあります。 また、リリース弁内のOリングを焼損し、ポンプが使用不能になります。
--	---

アドバイス	ポンプ内で乳剤が固着すると、リコイルスタータの始動ノブが重くなったり、動かなくなりますが故障ではありません。
--------------	--

(a) オイルカップから洗浄油（灯油）を給油します。

(b) *完全に固着した場合は、ポンプを分解・洗浄します。

b. ポンプのオーバーヒート（過熱）

重要

ポンプには水を吸入させないでください。ポンプ内の油膜が無くなり、ポンプが破損する原因になります。

(a) ポンプの温度が下がってから、オイルカップからエンジンオイルを給油します。

(b) * 歪みや破損した場合は取り替えます。

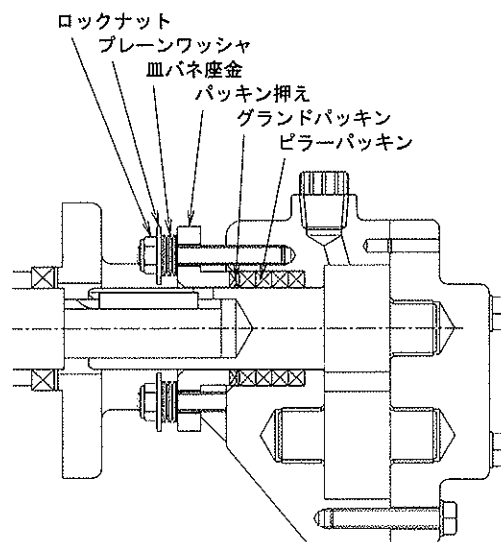
c. 油漏れ

(a) ポンプ用ピラーパッキンの補充方法

- ① パッキン押えを締めているロックナット、プレーンワッシャおよび皿バネ座金を外します。
- ② パッキン押えをポンプ本体から引き出します。

アドバイス

パッキン押えをポンプ用入力ギヤ軸に沿って移動させるだけです。パッキン押えが抜け落ちることはありません。



③ グランドパッキンをポンプ用入力ギヤ軸に沿って移動させます。

④ ポンプ用入力ギヤ軸にピラーパッキン1本を巻きつけます。

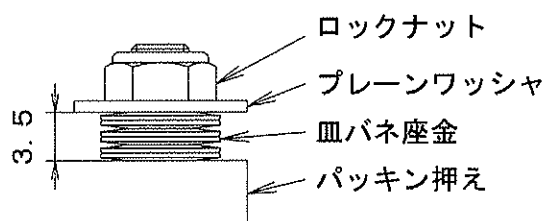
⑤ グランドパッキンを戻します。

⑥ パッキン押えでピラーパッキン、グランドパッキンをポンプ本体に押し込みます。

⑦ 皿バネ座金を右図のようにセットし、ロックナットで締め過ぎないように適度に締めます。

※目安としてはパッキン押えとプレーンワッシャの間が3.5mmになるように締めてください。

⑧ エンジンを始動してポンプを約1～2分程度回転させた後、エンジンを停止してロックナットの増し締めをします。



アドバイス

アスファルトスプレヤの使用頻度や補充期間によっては、エンジン始動後の増し締めの段階で、ピラーパッキンをもう1本追加補充する場合があります。

(b) ポンプ用グランドパッキンの交換方法

ピラーパッキンを交換するときに、グランドパッキンも同時に交換してください。

ピラーパッキンを補充する場合は、グランドパッキンはそのまま使用しますが、パッキン押えの締め代がないときは交換してください。

(3) 吸入の不具合

a. ストレーナが目詰まり

ストレーナを洗浄油（灯油）で洗浄します。

b. 吸入パイプ・ホースが目詰まり

吸入パイプ・ホースを洗浄油（灯油）で洗浄します。

c. 吸入パイプ・ホース取付部のゆるみ

取付金具などを増締めします。

d. 吸入パイプ・ホースの破損

吸入パイプ・ホースを取り替えます。

e. ポンプの摩耗

ポンプを取り替えます。

f. ポンプおよびリリーフ弁の油膜不足

オイルカップからエンジンオイルを給油し、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら、数回往復動をし、最後にリリーフ弁の「ツマミ」を押え、一度吸入状態になれば「ツマミ」を戻します。

アドバイス

ストレーナ部を外し、継手金具に手のひらをあて正常であれば吸着します。

(4) 散布の不具合

a. 乳剤の分離で沈殿物が多い

乳剤を攪拌し、散布適温まで加温します。

b. リリーフ弁に乳剤異物が噛み込む

(a) オイルカップから洗浄油（灯油）を給油し、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら、数回往復動をし、最後にリリーフ弁の「ツマミ」を押え、異物を取り除きます。

(b) * リリーフ弁を分解・洗浄します。

アドバイス

リリーフ弁に異物が噛むと乳剤はポンプ内で循環し、散布圧力が著しく低下します。

c. リリーフ圧の低下

リリーフ弁の圧力を調整します。（0.26MPa）

d. ノズルの詰まり

ノズルを洗浄油（灯油）で洗浄します。

e. 散布圧力の低下

上記、エンジン・ポンプ・吸入・散布の具合が悪いときの処置を行います。

保証規定

1. 保証期間

お買い上げ日より180日間と致します。

2. 保証内容

保証期間内に、取扱説明書及び本体貼付けラベル等の注意書に従った正常な使用状態で製造上の不具合により故障が発生し、弊社がその不具合を認めた場合弊社販売特約店及び指定工場において無償で当該部品の交換または修理を致します。

但し、運賃等の付随費用は負担致しません。

3. 適用除外（下記事項に該当する場合には有償修理となります）

- 1) 本書のご提示がない場合または所定事項の未記入、あるいは字句を訂正された場合。
- 2) 取扱説明書に記載してある正常な操作、手入れ、保管方法を怠ったため誘発した故障および酷使・天災・事故等によって誘発した故障と認められる場合。
- 3) 弊社が指定したサービス工場、特約店に連絡なしで修理された費用、またはそれらの修理が原因となって誘発した故障。
- 4) 弊社が認めない変更、改造が原因となって発生した故障。
- 5) 弊社の純正部品および指定する部品を使用されなかった場合。
- 6) 故障判定資料の不十分なものおよび損傷部品を紛失された場合。
- 7) 燃料、潤滑油、クリーナーエレメント、クラッチ、転圧板等の消耗品。
- 8) お買い上げ後の輸送、移動時の落下等、お取扱いが不適切なために生じた故障および損傷。

4. 別扱いになる保証部品

エンジンについては別扱いとなります。搭載エンジンメーカーで保証いたしておりますので、ご購入された販売店にお申しつけくださればお取扱いいたします。

5. 保証の適用

- 1) 本保証書はご購入製品について故障の修理又は交換部品の提供のみをお約束するもので、本製品の故障又は使用による損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。
- 2) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 3) 本保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

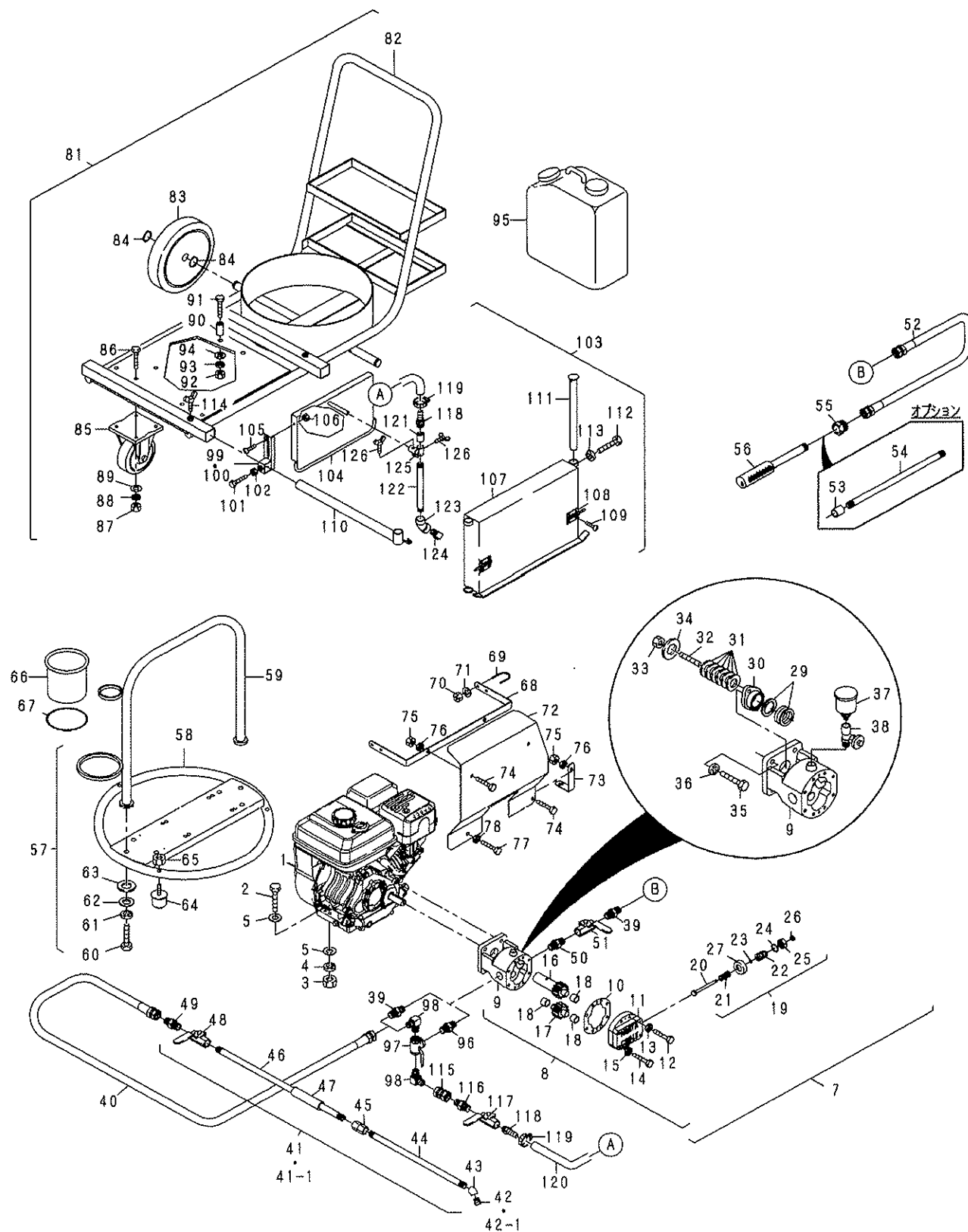
サービス記録	年 月 日	修 理 内 容	担当者

[サービスのご用命は]

保証期間中に万一故障が生じましたら弊社あるいはその販売店へ修理をご用命下さい。

パーツリスト

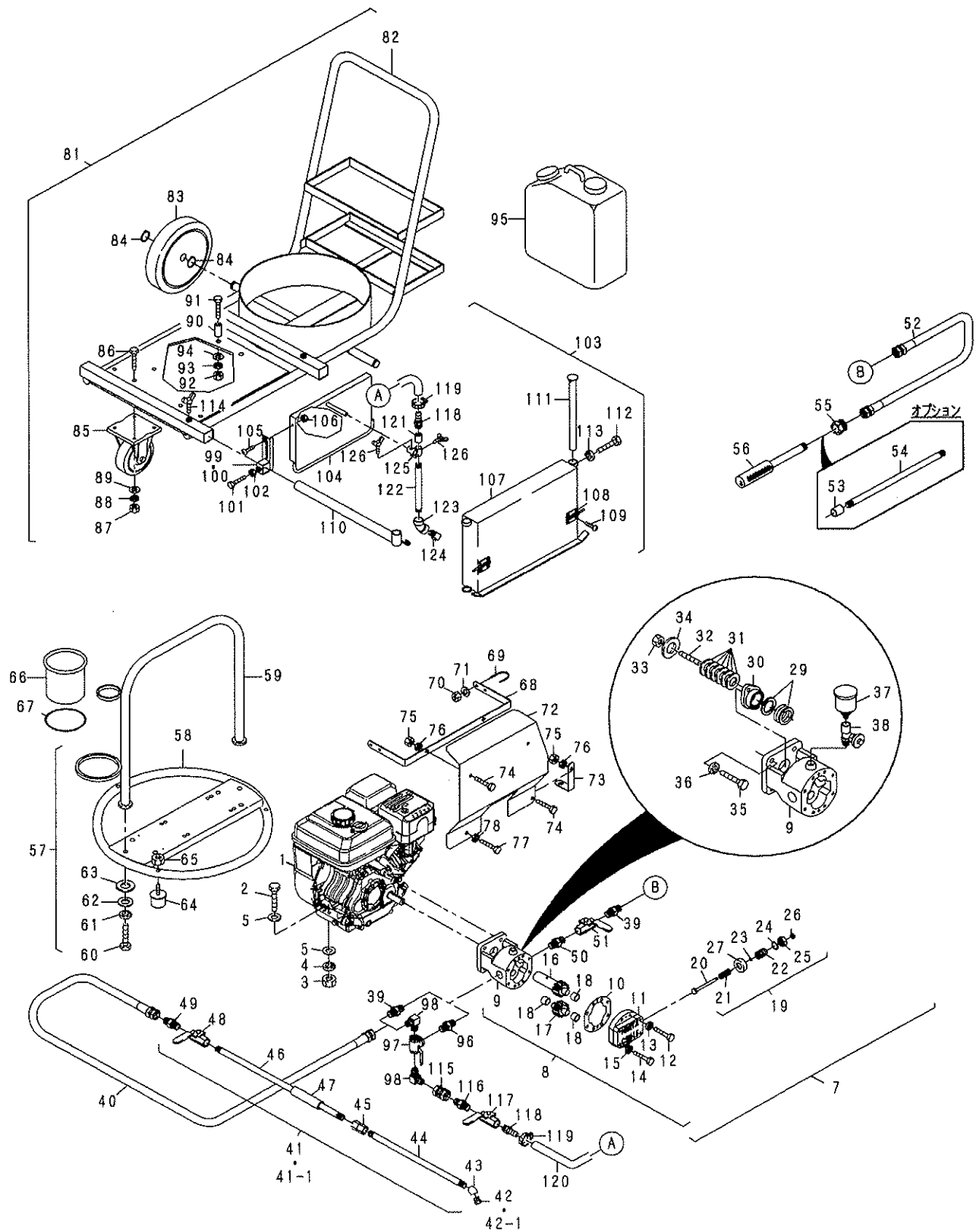
11001号機より適応



AS150M/AS150MH型部品表

図番	部品番号	部 品 名 称	数 量	備 考
1	ZN071250	エンジン	1	GB131LN-100
2	ZA070040	ボルト	4	M8×40
3	ZC037041	ナット	4	M8
4	ZC037540	スプリングワッシャ	4	M8
5	ZC037543	プレーンワッシャ	8	M8
7	CA500015	ポンプAss'y	1	8・19・29～36を含む
8	CA500023	ポンプ用ケーシングAss'y	1	9～18を含む
9	DR050048	ポンプ用ポンプ本体	1	
10	CA500040	ポンプ用ギヤパッキン	1	
11	CA500050	ポンプ用カバー	1	
12	ZA026551	ポンプ用半ネジボルト	4	M6×35(S45C)
13	ZC037530	ポンプ用スプリングワッシャ	4	M6(SS400)
14	ZA026581	ポンプ用半ネジボルト	4	M6×50(S45C)
15	ZC037530	ポンプ用スプリングワッシャ	4	M6(SS400)
16	CA500060	ポンプ用入力ギヤー	1	
17	CA500070	ポンプ用アイドルギヤー	1	
18	ZQ080380	ポンプ用オイルスライメット	3	70B-1512
19	CA500091	ポンプ用リリーフバルブAss'y	1	20～27を含む
20	DR050034	ポンプ用ポペット	1	(CA500100)
21	DR050033	ポンプ用スプリング	1	
22	DR050043	ポンプ用調節ネジ	1	
23	CA500140	ポンプ用Oリング	1	P6N イトン
24	DR050037	ポンプ用パッキン	1	銅パッキン (CA500150)
25	CA500130	ポンプ用ロックナット	1	M18
26	DR050035	ポンプ用リリーフ弁ツマミ	1	(CA500160)
27	DR050044	カラー	1	
29	CA501550	パッキンセット	1	
30	CA500180	ポンプ用グランドパッキン押え	1	
31	ZC038590	皿バネザガネ	12	M6
32	ZA026579	セットボルト	2	M6×45L(S45C)
33	ZC037033	Uナット	2	M6(SS400)
34	ZC038600	プレーンワッシャ	2	t1.2×φ6.5×φ18
35	ZA027030	ポンプ用取付ボルト	2	
36	ZC037540	ポンプ用スプリングワッシャ	2	M8(SS400)
37	CA500190	オイルカップ	1	
38	ZL050130	ガスバルブ	1	オス×メス
39	ZJ060270	ホースアダプタ (ストレート)	2	12×12(PF・PT)
40	ZB350670	散布ホースAss'y (高圧)	1	12×5000
41	CA500263	ハンドスプレバーAss'y ; 円形ノズル	1	42・43～49を含む
41-1	CA500262	ハンドスプレバーAss'y ; 扇形ノズル	1	42-1・43～49を含む
42	JA000063	ノズル; 円形	1	1/2MCKP1.5
42-1	JA000060	ノズル; 扇形	1	1/2"×3.0mm
43	ZJ055030	エルボ	1	1/2"×45°
44	CA500270	ハンドスプレバー (A)	1	1/2"×550L
45	CA500620	特殊ソケット	1	6角
46	CA500270	ハンドスプレバー (B)	1	1/2"×550L
47	CA501130	グリップ	1	22.6×106L
48	ZK051140	ボールバルブ	1	BBS-493-15Rc(1/2")
49	ZJ060270	ホースアダプタ (ストレート)	1	12×12(PF・PT)
50	ZJ021530	ニップル (高圧)	1	1/2"

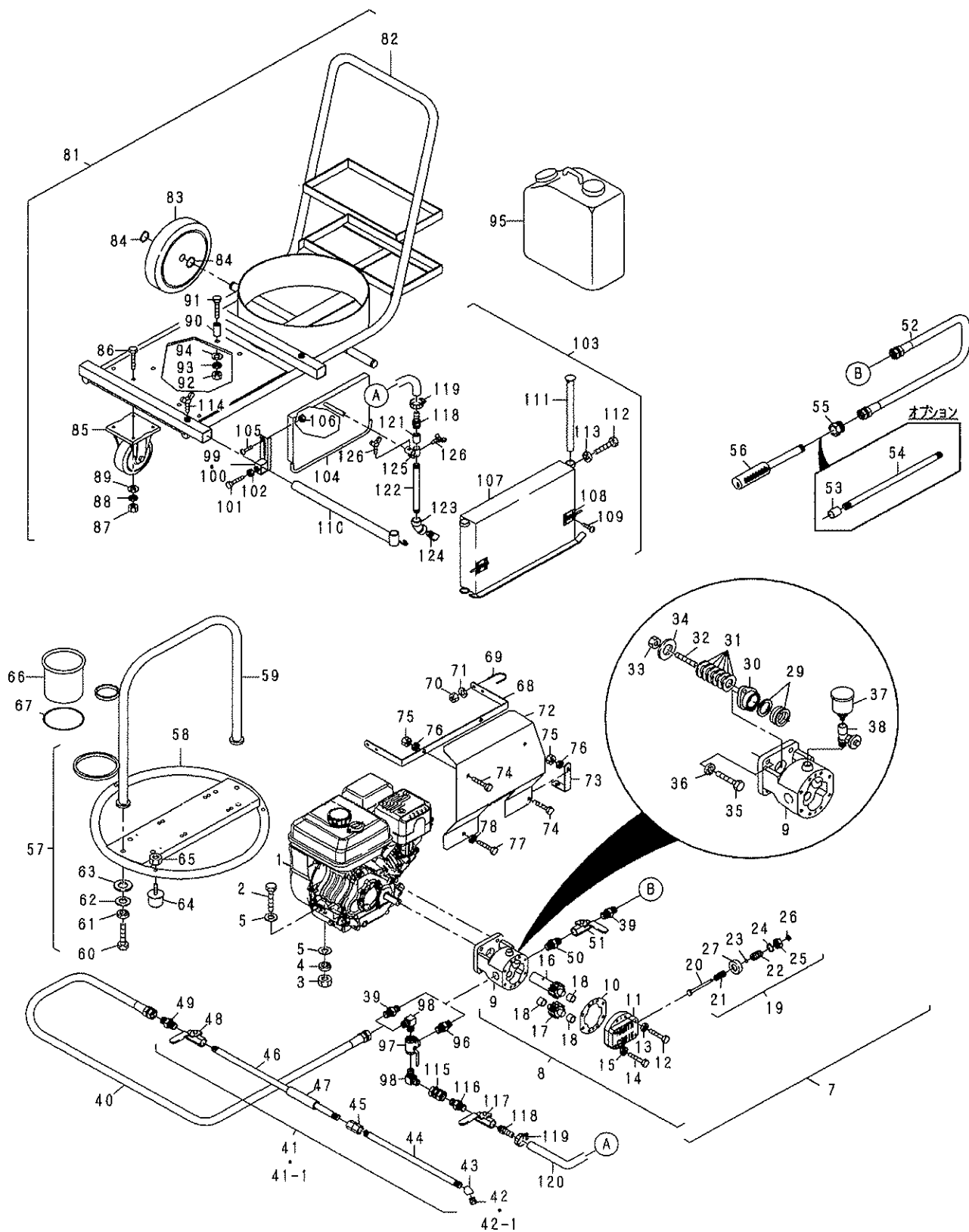
AS150M/AS150MH型部品表



AS150M/AS150MH型部品表

図番	部品番号	部 品 名 称	数 量	備 考
51	ZK051140	ボールバルブ	1	BBS-493-15Rc(1/2")
52	ZB350680	吸入ホースAss'y (高圧)	1	12×2500
53	ZJ030050	ソケット (低圧)	1	1/2" オプション
54	CA500270	ニップル	1	1/2"×550L オプション
55	ZJ061430	ホースアダプタ (オス・メス)	1	12×12(PF・PT)
56	DR090019	ストレーナ	1	
57	CA500302	エンジン台Ass'y	1	58～65を含む
58	DR010101	エンジン台	1	
59	CA500320	エンジンハンガー	1	
60	ZA027521	ボルト	2	M10×20(S45C)
61	ZC037550	スプリングワッシャ	2	M10(SS400)
62	ZC037553	ブレーンワッシャ	2	M10(SS400)
63	AB011650	座金	2	3/8"×t3.2
64	ZH060451	防振ゴム	3	KI-30(特)
65	ZC037043	ナット	3	M8(SS400)
66	CA100010	ポット	1	
67	ZD151190	オリング	1	P-90
68	DR010092	取付金具	1	(A)
69	ZA030984	Uボルト	2	M6×15A
70	ZC037030	ナット	4	M6(SS400)
71	ZC037530	スプリングワッシャ	4	M6(SS400)
72	DR010171	遮蔽板	1	
73	DR010093	取付金具	1	(B)
74	ZA027011	ボルト	3	M8×15(S45C)
75	ZC037041	ナット	3	M8(S45C)
76	ZC037540	スプリングワッシャ	3	M8(SS400)
77	ZA027011	ボルト	1	M8×15(S45C)
78	ZC037540	スプリングワッシャ	1	M8(SS400)
81	CA500333	台車Ass'y CSM-15T/15TJ	1	82～95を含む
82	CA500332	台車 CSM-15T/15TJ	1	
83	CA500350	後車輪 CSM-15T/15TJ	2	P200W
84	ZK020110	スナップリング CSM-15T/15TJ	4	φ20軸用
85	CA500340	前車輪 CSM-15T/15TJ	2	P-100WJB(フ・レーキ付)
86	ZA027020	ボルト CSM-15T/15TJ	8	M8×20(SS400)
87	ZC037040	ナット CSM-15T/15TJ	8	M8(SS400)
88	ZC037540	スプリングワッシャ CSM-15T/15TJ	8	M8(SS400)
89	ZC037543	ブレーンワッシャ CSM-15T/15TJ	8	M8(SS400)
90	CA800660	パイプ CSM-15T/15TJ	4	3/8"×50L
91	ZA027631	ボルト CSM-15T/15TJ	4	M10×75(S45C)
92	ZC037051	ナット CSM-15T/15TJ	4	M10(S45C)
93	ZC037550	スプリングワッシャ CSM-15T/15TJ	4	M10(SS400)
94	ZC037553	ブレーンワッシャ CSM-15T/15TJ	4	M10(SS400)
95	CA100130	ポリ缶 CSM-15T/15TJ	1	
96	ZJ021530	ニップル CSM-15TJ	1	1/2"
97	ZK051060	三方コック CSM-15TJ	1	1/2"
98	ZJ060280	ホースアダプタ CSM-15TJ	2	12×12(PF・PT)
99	CA501020	遮蔽板取付ブラケット CSM-15TJ	1	(R)
100	CA501030	遮蔽板取付ブラケット CSM-15TJ	1	(L)
101	ZA027021	ボルト CSM-15TJ	2	M8×20(SS400)
102	ZC037040	ナット CSM-15TJ	2	M8(SS400)

AS150M/AS150MH型部品表



42

[illegible]



株式会社 明 和 製 作 所

東京営業所	〒334-0063	川 口 市 東 本 郷 5 TEL. (048) 284-8883 FAX. (048) 282-0234
仙台営業所	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-23-10 TEL. (022) 236-0235 FAX. (022) 236-0237
名古屋営業所	〒454-0869	名古屋市中川区荒子 1-32 TEL. (052) 361-5285 FAX. (052) 361-5257
大阪営業所	〒536-0021	大阪市城東区諏訪 3-2-20 TEL. (06) 6961-0747 FAX. (06) 6961-9303
福岡営業所	〒816-0921	福岡県大野城市仲畑 1-10-33 TEL. (092) 502-9100 FAX. (092) 502-9104
関越出張所	〒378-0122	群馬県沼田市白沢町生枝 1480 TEL. (0278) 53-4075 FAX. (0278) 53-3807
川口工場	〒334-0063	川 口 市 東 本 郷 5 TEL. (048) 283-1611 FAX. (048) 282-0234
部品センター	〒334-0063	川 口 市 東 本 郷 5 TEL. (048) 280-5555 FAX. (048) 282-0330

<http://www.meiwa-ltd.co.jp>

※本機械を譲渡されるときは、次の使用者のために本書を機械につけておいてください。
※機械の仕様変更により本書の内容と実機が、一致しない場合がありますのでご了承ください。